



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 12

2018.3.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：ESDワークショップ/成果発表&交流会/ESD交流会北陸長野/ESD小事典

## 1月23日 中野西高ESD倶楽部と長野ユネスコ協会青年部がESDワークショップを行いました



中野西高校において、長野ユネスコ協会青年部つながるのメンバー4名が中野西高校のESD倶楽部を中心とした高校生13名と、ESDに関するワークショップ「中野西×つながる 語り合おう！つながりあおう！～今日からはじめるESD～」を行いました。本企画は中野西高等学校において毎年行われているUNESCO - Week（1月22日～26日）の企画の1つとして実施されたものです。ワークショップでは、グループに分かれて自分の現在、過去、10年後の未来を考えながら、自分自身とESDの関わりについて考えま

した。ワークショップ終了後にも話に花が咲き、高校生やつながる（大学生）のメンバーからは「また一緒に何かをしたい」という声もあがりました。信州ESDコンソーシアムでのつながりを生かした、このような学び合いの場がこれからも広がっていくことを期待しています。（安達仁美）

## 2月3日に信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が開催されました

開会前より発表の小学生、生徒や父兄、ゲストなどで会場はにぎやかになり、会場後ろの関連団体の紹介ポスターにはさっそく人だかりがしました。10時より運営委員長の挨拶で開会、以下各発表の概要です。

●山ノ内西小学校の5年生15名による「私たちの米づくり」は、田起こしからしろかき、田植え、雑草取り、田んぼの生き物調査、稲刈り、脱穀、収穫祭、わらのしめ縄づくりまで全員で1年間全力で取り組んだ記録です。無農薬で作ることの苦労やその意味、思ったより大変だったこと、泥の中を転がって楽しかったことなど率直な感想もあり、何よりも体験して考えること、そして話し合うことの大事さを学んだという大きな成果が伝わってきました。



●高山村中学校の3年生5名による「総合的な学習：故郷 高山村と私」の3年間を通したESDの取り組みです。1年は「高山村を知る」、2年は「桜の保全」、3年は「ブドウ栽培から学ぶ」と年ごとにテーマを決めて取り組み、村の未来に大きな希望がもてたとSDGsにつながる学びの成果を大きな声で発表してくれました。

●山ノ内中学校の1年生12名で「地域自慢」として地元の多彩な名産、名物を実地に探り、普段身近な温泉が7世紀からの日本でも最古ではないかと驚いたり、改めて地域の良さや課題を知りました。皆で調べ、考えることで地域のこれからの大きな期待が持てた学びとなりましたという感想がとてもESD的でした。



●信大附属松本中学校は遠路1年生3名がヒートパックの開発、志賀高原エコパークトレッキング、松本城の清掃ボランティア活動、英語でのインタビュー、ピザ窯の製作など多彩な活動を紹介しました。その中で環境教育が人権や地域貢献などにも繋がっていることを実感し、地域貢献したいとの意欲が高まったとのことでした。



●長野西高校は3年生1名が代表でアフリカでのボランティア活動の紹介でした。村でのトイレ作りや奴隷城の見学など貴重な体験から「貧しくても笑顔で乗り越えるアフリカ流！」を学び、世界の広さと夢を持つことができましたそうです。

昼にはポスターブースなどで交流会が行われました。以下午後の発表概要です。

●山ノ内東小学校は4年生17名で素敵なコカリナの演奏を聞かせてくれました。



ただ吹くだけではなく、長野五輪で伐採された木からコカリナが生まれたという人と自然との素敵な歴史を学び、それをクイズにするなど楽しい地域学習になりました。



●山ノ内南小学校は1年生10名でのウサギとの1年を楽しく発表してくれました。小さな子どもたちの大きな声での歌と踊りは本当に素敵でした。そしてウサギのうんちを大根の畑に入れて、大根の葉はウサギさんに、大根は私たちが食べて、グルグルまわるのでグルグル大根と名付けました、では自然の循環を体験的に学んでいることに皆感心して会場一杯の大きな拍手でした。



●高山小学校は3年生19名での「わくわく村」の紹介でした。わくわく村は地域の方々との協同学習で、今年ホタルの飼育やサバイバル炊飯、綿の栽培から製品製作、ミソダマ作り、リンゴ栽培から選果場の見学などの様々なふるさと学習から

「高山村が大好きになりました！」とまさにESDとしての素晴らしい発表でした。



●中野西高校は4名のESDクラブ員と青年会議所4名による「おごっそフェア」などの企画運営を漫才もはさんでの楽しい発表でした。特にESDは本来学校だけでなく、地域の人々や企業との連携、協働が重要でありながらなかなか環が広がらない中でこの活動はモデルとなる貴重な事例でした。地域にとっても子どもや青少年の意見や参加の重要性が意識されつつあると希望がもてました。

●文化学園長野中学・高等学校は生徒10名が本年加盟したユネスコスクールとしての活動を月毎に紹介してくれました。英語による日本文化の紹介など豊かな国際活動の中で表現力が養われ、自己評価が高められてゆく様子がよくわかりました。



こうした発表に対して、ゲストの方々からの暖かい評価と適切なアドバイスがあり今後の活動の励みになったものと思われま。ただ、発表した学校間の交流の仕組みは今後の課題ではないかと宿題もいただきました。ユネスコスクールの活動の内容も充実し、発表も楽しく工夫されESDの成果が向上しています。また、参加数は名と昨年を大きく上回るだけでなく一般の参加者も多くて、ESDが少しずつ普及しつつあるのを感じました。さらなる発展が期待されます。

(渡辺隆一)

## 2月23日 ESD 交流会 in 北陸・長野に参加しました



北陸の大雪が心配でしたが当日は駅前の巨大なガラス屋根も無事でした。ここ数日で通りの雪がやっと処理されたとのことでした。本交流会は「中部7県の環境学習 ESD の現状と展開」をテーマに各県・市の環境担当者からの施策説明とそれを受けてのグループ討論でした。以下各県の報告です。

富山県は小学4年生に「チャレンジ10」という温暖化学習と家庭での省エネ実践を呼びかけ今年66校で実施された。石川県は「学校版環境ISO」を提供し小学校で69%、中学58%、高校100%で省エネ等に取り組む優れた活動にエコギフトを贈呈している。岐阜県は「清流の国ぎふ推進事業」で推進委員を学校に派遣、県費で発表会を実施しアンケートで評価をおこなっている。福井県は「里山里海湖研究所」で研究、教育、実践をしている。特に水月湖年縞は7万年の世界標準で資料を全小中に配布。「ふるさと学びの森」を全市町33か所に設け体験活動の場を提供している。三重県は「環境学習情報センター」で展示や出前講座、指導者養成のほか、年3回の環境フェアなどを実施、年間3万人が利用。長野県は環境保全研究所の「サイエンスカフェ」「自然ふれあい講座」などを紹介、質問で環境カレッジも計画中と。愛知県は「地域資源を生かし、各世代に応じた次世代の育成」を目標に幼児・小中校・大学・社会人への多彩なエコアクションを提供している。名古屋市は「なごや環境大学」を実施、150講座、2万人が参加、環境学習センターもあり、150名の環境サポーターを学校に年500件派遣している。

それぞれに様々な資料やパンフを提供いただいた。それぞれの担当者は環境教育に熱心に取り組んでいるが近県でも事業の相互交流はないそうで貴重な機会だったようです。それぞれの事業が全国で展開されればESDも大きく前進するだろうと思われ、実践事例の交流はますます大事になるだろうなと感じました。各県の資料は「図書2階の室 ESD コーナー」にあります、ご覧ください。(渡辺隆一)



### ESD小辞典

## ユネスコスクールとは

ユネスコスクールの設立や加盟については「ユネスコスクール加盟申請の手引き」に詳しいので以下に引用で紹介します。

ユネスコスクールになるということ：日本国内では平成20(2008)年から、ユネスコスクールを持続可能な開発のための教育(ESD)推進の拠点と位置づけ、ユネスコスクール加盟を促進する方針を提起しています。ユネスコスクールになるということは、学校がユネスコスクールという承認を得ることに加えて、ユネスコスクールという国内外の学校間ネットワークに加盟するということです。

文部科学省が示した「ユネスコスクールガイドライン(2012)」には、ユネスコスクールとして大切なこととして、以下のように記載があります。また、日本ではユネスコスクール加盟の前提としてESDをすでに実践に取り入れていること、ユネスコスクール加盟後はESD推進拠点として機能することが求められています。

・国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互



いに交流相手の良さを認めあい、学び合うこと。・地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。・校外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的発展するよう心がけること。・学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。・ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。・必要に応じ、ASPUivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

(ユネスコスクールガイドライン(名称一部変更)ユネスコスクールとして大切なこと)から

(渡辺隆一)

### 事務局より

信州ESDコンソーシアムに、新たに「いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校」「NPOやまぼうし自然学校」「長沼公民館」が参加しました。県内ではユネスコスクール申請を希望する学校もあり、今後とも活動の広がりが期待されます。



## 信州ESD通信

No.12 2018.3.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一

〒380-8544長野市西長野6信州大学教育学部

事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoesda@shinshu-u.ac.jp